

令和 7 年度 恵庭市観光推進協議会(第 3 回)議事録(委員用)

1 期 日 令和 7 年 10 月 23 日(木)14:00～ 市役所庁舎 3 階第 2・3 委員会室

2 出席者 恵庭市観光推進協議会委員 9 名

(高野会長、内倉委員、尾谷委員、武井委員、田村委員、土谷委員、沼倉委員、秦委員、薬袋委員)
事務局 6 名

(嘉屋経済部次長、大林花と緑・観光課長、高橋主査、高橋主査、小井主査、伊里)

※欠席委員(菊地委員、小泉委員、小関委員、瀬恒委員、中尾委員)

3 報告

(1)地域経済循環分析委託による調査・分析中間報告

●資料 1-1「恵庭市観光消費アンケート結果報告書」、資料 1-2「恵庭市観光消費額及び一人当たりの観光消費単価の算出過程について」に基づき、事務局より説明。

<質疑>

なし

(2)これからの恵庭の観光を考える会の意見について

●資料2「これからの恵庭の観光を考える会意見集約」に基づき、事務局より説明。

<質疑>

なし

(3)第 3 期恵庭市観光振興計画(案)のパブリックコメント実施(11 月 5 日～12 月 4 日)及び広報えにわ 焦点掲載について

●協議会でいただいた意見をもとに、再度修正を行った計画案について、パブリックコメントを実施することを事務局より説明。

<質疑>

なし

4 議事

(1)第 3 期恵庭市観光振興計画(案)について

●資料 3「第 3 期恵庭市観光振興計画(案)」について、事務局より説明。

<質問・意見>

① オープンガーデン・公園

【委員】以前から、観光とオープンガーデンを結びつけることに違和感を覚えている。観光においては、オープンガーデンという言葉ではなく、「まちなかガーデン」や「商店街のガーデンギャラリー」などの表現に変えていただきたい。

商店街や町内会の方々が通りをお花で綺麗にしている延長で、自宅の庭を綺麗にしている感覚であるため、「まちなかガーデン」という言葉が認知されてほしい。

【会長】P2 第 1 章で「花に関する観光においては、一般住宅のオープンガーデンにおける交流促進に加え…」と書ききっているため、そこが強烈に感じるのかもしれない。

【委員】個人の家に観光客が押し寄せるような状況を推進するようなことは、いかがなものかと思う。恵庭市には、はなふるの他にもふれらんどや恵み野中央公園があり、これら 3 つの公園には大きな可能性があると思っている。はなふるだけではなく、他 2 つの公園も計画の中に組み込んでもらい、少し焦点を

当てていただきたい。

今後高齢化が進んでいく中で、住民の拠り所となるような「暮らしの保健室」を公園内に作れないかと様々な場面で提案している。暮らしの保健室とは、看護師が常駐し、訪れた人が何でも安心して話せるような空間で、様々な困りごとを横につなぎ解決の手助けをする組織のこと。中間支援の組織は、そのように恵庭全体の公園を結びつける組織であってほしいと、それが恵庭から発信されることによって、「暮らすように訪れるまち」という言葉の厚みが出てくると感じる。

【会長】公園について、4 章でははなふるについてしか触れていないため、それ以外の公園についても触れていただけるようご検討いただきたい。

暮らしの保健室について、公園だと何かと制約があり難しい面もあるかと思うが、そちらについてはいかがか。

【事務局】暮らしの保健室について、考え方としては非常に大切なものだと思うが、観光振興計画の中で整理すべきかどうかは悩ましい。

【委員】公園の在り方として、持続可能な公園を目指すということも考えている。トレビの泉をイメージして、恵みの泉を作り、聖地巡礼をして願いを叶えるというような場所になれば、公園を持続可能にするためのお金を落としてもらう仕掛けが生まれる。お金を落とすとなると観光にもつながると考えている。

【事務局】中間支援機能について、今はガーデンに関することを特に掲げているが、今後は花にとどまらず、まちのガイドのような形で発展させていきたいと考えているため、委員がおっしゃっている内容はこの延長線上にあると思われる。将来的には実施することも考えられるが、現時点で計画に記載するというのは難しいと感じている。

公園の位置づけについては、はなふるに限らず触れられる範囲で記載したいと思う。

② 書式・表現・観光庁関係予算概要

【会長】P8 の図の色が見づらいため、白に変更していただきたい。また、P15(2)に「クラフトビール」との記載があるが、限定せずに「ビール」とした方が良いのではないかと。P17 に、「令和 7 年度観光庁関係予算概要」として表が掲載されているが、本計画は 10 年残っていくものであるため、細かい数字ではなく、これらの予算を使用した事例や、観光庁が力を入れて成功した事例などを記載したほうが参考になるのではないかと。

【委員】先ほどご提案があった「オープンガーデン」という言葉の使い方について、P15 では恵庭観光が目指す将来像として大切なお題目になっているが、その表現についても揃える必要がある。

③ 第 4 章・第 5 章

【会長】P21 に「花盛りとなる夏」と記載があるが、花盛りは夏で大丈夫か。春というイメージもある。

【事務局】初夏に花盛りとなるというイメージで記載している。

【会長】伝えたいこととしては、秋や冬、早春でもガーデンを楽しむことができるという内容であると理解できる。

【委員】施策について、全てを同時期に実施するわけではないと思うが、順序や優先度を計画の中で記載する予定はあるか。例えば、施策の中にハラルやヴィーガン対応についての記載があるが、恵庭市の観光にとってインバウンドを取りに行くのは一つの大事な視点ではあるものの、施策の優先度的に今すぐ取り掛かるというのは現実的ではないと感じている。このようなことは、推進体制や推進計画に影響してくると思うが、どのようにお考えか。

【事務局】現時点では、優先順位を記載するという考えはない。委員のおっしゃる通り優先順位は必ずあるが、その優先順位は刻々と変わっていくものだ認識している。そこで、計画を策定した段階で皆さんと共有をさせていただいた上で、その後進捗管理をこの協議会の中で行っていく予定。また、観光を考える会でもぜひ意見を伺わせていただき、市の予算状況についてお伝えするという事を繰り返していきたい。最終的には、ここで掲げたもので最後まで実施できないものがでてくる可能性もあるが、まずは現時点でこれらについて取り組むという意思表示をしていきたい。

【会長】5 章の計画の推進のところでは組織論しか書かれておらず、その組織がどう活動していくかということが書かれていない。市だけではなく、観光協会や各団体においてもどのような事業をやっていくかという計画は立てると思うので、毎年状況を見ながら重点施策を設定して推進していくというような内容を追加した方が良いと感じる。

【事務局】観光を考える会の中で出た意見として、二次交通について皆さんが強く問題意識を持たれていたように記憶に残っている。そのため、まずはそのような施策について来年度取り組んでいければと思っている。5 章の文章については、会長がおっしゃられた通り検討したいと思う。

【委員】4 章について、はなふるの駐車場不足の解消についての項目があるが、はなふるの問題点はそこだけではないと思う。優先度が高いから記載されているのかとも思うが、他の項目に比べて具体的であるため、そのハード面だけが進んでいってしまうのかなと思った。ただ 5 章を読むと、推進体制や観光を考える会で議論が行われていく中で、観光としてはなふるはどんな風になっていくべきなのだろうという論点が出てくるといったのでそれに期待するところです。

【会長】4 章は「基本方針と施策・目標」という章立てについて、基本方針が最初に述べられ、施策と目標と一緒に書き込んである形であると思うが、基本方針が短い部分もあるので、もう少し書き込んでいただきたい。

【事務局】4 章 1 の(7)に「北海道内ガーデンのゲートウェイを目指す中で」という表現が入っているため、これを基本目標で明確にしたい。また、はなふるの駐車場不足解消については、駐車場だけが問題というわけではなく、特に駐車場不足について取り上げるという意味合いで記載していたため、改善すべき事項がある中でまずは駐車場問題に対応すべき事項として提示するというように整理したい。かつ、4

章 2 の基本目標については、施策を反映できるような共通事項を追加するような形としたい。

④ オープンガーデン

【事務局】先ほどご指摘いただいたオープンガーデンという言葉について、4 章 1 の(2)にも「市内オープンガーデンツアーの促進」との記載があるが、これは花と暮らし展で実施しているバスツアーをイベント時以外にも実施するという内容である。オープンガーデンバスツアーを拡大していくという内容を観光振興計画の施策として掲げて問題ないのだろうか。例えば、中間支援組織で有料のオープンガーデンツアーの実施を考えたときに、先ほどのお話だと、この取組自体がオープンガーデンを行っている方々の気持ちに反しているのだろうか。

【委員】オープンガーデンという名前のイメージがいつでも誰でも見ることができる個人の庭となってしまうため、「恵庭のガーデン巡り」というような名前に変われば良いと思う。

【委員】世間一般から見て、「オープンガーデン」と聞くとどのようなものが想像されるのか。個人的には、オープンガーデンという言葉が表に出ることは悪くないと感じている。

【委員】お金を払って入るようなガーデンもオープンガーデンだと思っているが、一般住宅のオープンガーデンと聞くと、オープンハウスと同様の意味をイメージする。ぜひ誰でも見に来てくださいというようなイメージを持つ。

【委員】北海道全体のオープンガーデンを紹介する「オープンガーデン北海道」という冊子を作っており、以前は販売をしていたが、冊子に掲載されるなら情報を出したくないという方も増えてきたため、今では会員にならなければ冊子を手にして情報を得ることができないようにしている。オープンガーデンは個人の庭からスタートしているものであるため、公共の庭と捉えるよりも個人の庭と捉える方が多いと感じる。

【委員】認識としては個人の庭であり、花と暮らし展の際には特別にオープンガーデンを巡るというようなイメージと把握した。

【委員】問題は、個人の庭であっても、いつでも誰でもどんどん来てくださと捉えられてしまう点にあるので、観光振興計画の中にオープンガーデンと記載してしまうことは、まずいのではないかと考えている。

【事務局】恵庭市 HP 上では、オープンガーデンとは個人やお店などが手入れし、一定期間公開しているものと定義しており、公共施設が入っているようには見えない表現がなされている。ただ、この議論を突き詰めていくと花マップの扱いをどうするかという課題にもつながっていく。

【委員】今年度花マップ掲載件数は昨年と比較して 6 件減少した。オープンガーデンをされている方の年齢層が似通っているため、今後一気に掲載件数が減るという可能性もある。オープンガーデンツアー等

今までやってきた取組を今後も継続していけるかどうかという課題があることはいろいろな場面で言い続けてきた。受け入れ人数や機会を限って、一定のバランスを保ちながら一定層のニーズに応えたいといったところで十数年間いろいろな方の力のもとに実現できてきてものではあるが、今後同じようにまたは拡大してやっていけるのかどうかというところは、今オープンガーデンをされている方々との確認や相談が必要なのだと毎年感じている。

【会長】P20～21 にかけてガーデナー・ガイドの育成等の項目もあるが、こちらについてはいかがか。

【委員】ガーデナー・ガイドの育成は必要。ガイドがいなければ、勝手に見て回る人が増えることとなり、問題が大きくなる。個人で見て回る場合であっても、歩道上からガーデンを見て回る分には問題ない。その中でたまたまアポイントを取って、ガーデンを中で見て大丈夫という方がいて見ていただく分にも問題はない。ただ、オープンガーデンを誰でも見せてあげますとなるのが問題だと感じている。恵み野は既に有名であるため、認知されているものではあるが、やはり個人のお庭であるため、配慮が必要であると考ええる。

【事務局】例えば、ガイドがついてオープンガーデンを案内することに限定するという場合はいかがか。

【委員】そうであれば問題ない。自由に巡るとなると、駐車場の用意がないのに車で来るなど様々な問題がある。

【事務局】それではその部分を文章で表現することができれば、オープンガーデンという言葉を残すこともあり得るのではないか。

【会長】色々な配慮をせずに車で乗り付けてくるような方がオープンガーデンにたくさん来るという問題と、それを支えていくための人材の確保が難しくなってきているので、それらを踏まえて適切な個人のお庭の楽しみ方の転換期が来ているというようにしていかなければならない。

【事務局】4 章の 1 で「花の拠点(はなふる)を核としたガーデンツーリズムの構築」ということで、公共施設の花を楽しんでいただくということはもちろんであるが、しっかりとしたルールの下でオープンガーデンを楽しんでいただくということも魅力の 1 つであると考えている。オープンガーデンとだけ記載してしまうと、好き勝手に出入りされてしまう等のトラブルが起こるため、記載方法について検討したい。

【委員】これも一つの課題になるのではないか。時代に合わせた形で新たなオープンガーデンの楽しみ方を目指していくというような記載があると望ましい。

⑤ 成果指標(入込)

【会長】P25「観光入込客数は 180 万人から 200 万人程度が適正水準である」との記載について、闇雲に増やす必要はないと考えているが、200 万人を超えたら抑えようという意味でもないと把握している。適正水準という言葉は少し言い過ぎであると感じる。

また、「市外宿泊者の増加を第一のターゲットとします」との記載について、市外も市内もどちらもターゲットとして、「市外宿泊者の増加もターゲットとします」という幅広い表現に変えた方が良いのではないかと考える。

P25 の図について、2024 年度の入込が 181 万人との記載があるが、181 万人ではなく 2022 年～2024 年までの平均など、丸めた数字の方が良いのではないかと。

P28 の推進体制図について、本協議会も入れていただきたい。

⑥ ハラル・ヴィーガン

【委員】4 章 4 の(3)に食の多様性対応の機運醸成としてハラルとヴィーガンに触れているが、まずハラルは規制が多くあるため専門店がほとんどなく、飲食店としては成り立たない部分がある。ヴィーガン専門店は東京などで見られるが、恵庭でやったとしても儲からないだろう。啓発活動を商店街として受けたとしても、儲からないものはやらないという結論になってしまう。

【委員】最近は健康志向の人が増えてきているから、インバウンドの人だけでなく、健康志向の若者たちにもヴィーガン料理は受け入れられる可能性がある。目指すという意味で施策の項目に入れていても良いと感じる。

【事務局】ハードルが高いことは認識しているので、機運醸成に留めている。そもそもこの項目が必要なのか、ハラルやヴィーガンの人がいるということを含めての周知として項目を残すか、の 2 つの選択肢があるが、委員の皆様はいかがか。

【委員】基本理念を見ると恵庭の暮らしに対して親和性のある観光、住民にとって無理のない受入体制ができるというのが本計画の看板であると受け取っている。その中で、背伸びしてまで受け入れていくとなると、基本理念との齟齬を少し感じるため、項目としては無くても問題ないと感じる。

【事務局】皆様の意見をお聞きして、この項目は削除する方向で進めたい。

⑦ 成果指標(客単価)

【委員】目標として客単価を 700 円から 1400 円ほど上げるとのことだが、具体的にはどのようなことを行うのか。

【事務局】一番効果的なことは宿泊を増やすことではあるが、それ以外でも今回 3 つの柱として掲げている花はもちろん、盤尻地区の自然環境の中で体験型のサービスを提案できないかということにも取り組んでいく。また、スポーツについても、今ふれらんどではコンサドーレさんと基本協定を結んでいるので、そのような取り組み全体を通して、10 年間で 30%の増加を目指す。30%という数字は積み上げて出ている数字ではなく、道内市町村の例を見ると 32%や 30%と目標を掲げているところが多いということも参考に算出している数字である。

(2)その他

【事務局】次回協議会は12月中旬を予定。会長と日程調整の上、別途ご案内を行う。

今回いただいた意見を踏まえ、計画案を修正した後パブリックコメントを行うこととなる。日程の関係上、再度協議会開き皆様にご意見をいただく時間がないため、皆様にご了承をいただければ、会長に一括で説明を行った後にパブリックコメントを行うこととしたい。

【会長】パブリックコメント実施前に皆様に修正した計画案を送付してほしい。

【事務局】説明は会長に一括で行い、パブリックコメント前に委員の皆様へ計画案を送付する。

以上